

第2グループ

第2グループガバナー補佐 大畑 茂 (朝霞RC)

伝統は重要です。

しかし、私たちが伝統を包摂しているのであり、

伝統が私たちを包摂しているのではありません。

(ジョン・ヒューコ事務総長兼最高経営責任者 「2025年国際協議会でのスピーチ」より)

いうまでもなく、ロータリークラブは国際ロータリー(RI)の会員であり、ロータリアンはロータリークラブの会員です。この三者の間には伝統的に微妙な齟齬が存在していますが、RIの基本理念と戦略計画、及び、坂口孝次年度ガバナーの提唱する地区方針の下、ガバナー補佐の職掌*1をふまえ、「ロータリーの主体たるクラブの強化と活性化の推進」に尽力してまいります。

去る2月10日、ロータリー国際協議会にて、マリオ・セザール・マルティンス・デ・カマルゴ会長エレクトが「ロータリーの最大の財産は会員です」と前置きをし、“Unite for Good”とのアピールを発信したとき、“Doing good in the world” *2が心に浮かびました。同時に、「近年、ロータリーの変容が喧伝されているが、はたしてこれはロータリーの現状と未来とを的確にとらえた上でのものだろうか」との思いも巡りました。

たとえば2019年の「DEIの声明」。「Diversity, Equity, Inclusion」にBelongingを加えた「多様性、公平さ、包摂性、帰属意識」をRIは6年前に「新たな戦略」として示しました。しかし、実際にはこれらの語句は1900年代初頭にはすでに社会的に成熟していた概念であることが『The Rotarian』誌から確認できます *3。

たしかに、あたらしい思潮を表現するためには新しい形式が必要です。しかし、ロータリーは徒に外部からの圧力を受けて受動的に変質したのではありません。自らが築き上げた文化の上に、時代の変化を受容し、柔軟かつ能動的に自らを変容させて現在に至っているのです。つまりは「輸攻墨守」……。1905年の創立以来120年余の伝統が私たちを包摂しているのは事実です。しかし、ガバナー補佐職拝命に際し、「私たちロータリアンは伝統の上に智慧を重ね、世のため人のために万策を巡らしてきた者である」という思いを高く掲げて責務に努めます。大愚なる者に寛容の心を以てお力添え賜りますようよろしくお願いいたします。

さて、私たち2570地区が地区リーダーシップ・プランに基づきガバナー補佐制度を導入して以来25年を数えました。第2グループからは初代として山田一郎会員(新座こぶしRC)をお送りして以来、選出は輪番を原則としてまいりました。が、この度、ガバナーエレクトの専決事項とはいえ、新座ロータリークラブより順をお譲りいただきましたことに衷心より御礼を申し上げ、結びといたします。

註

- *1 『ロータリー章典』 2024年10月 17.030. クラブ運営に関連した管理業務を遂行することで、ガバナーがその責務に専念する時間が持てるようにする(要旨)
- *2 1917年のアトランタ大会での「ロータリー財団の父」アーチ・C・クランフによるアピール。
- *3
 - ・講演者と聴衆の両方に意見の多様性(Diversity)が見られました。(記載『The Rotarian』 1926年7月号P27)
 - ・社会や共同体としての存在における共通の接点に対する日常的な関係に公平性(Equity)と正義のルールを適用する傾向が高まり、広がっています(記載『The Rotarian』 1915年3月号P48)
 - ・適格なすべての要素を包含し(Inclusion)、誰も排除しない。(記載『The Rotarian』 1927年5月号 P34)